

11月17日(木) 夜

甲状腺検診縮小の論拠は示されたか？

—福島甲状腺がん国際会議 報告—

福島第1原発事故
甲状腺検査規模維持を
県民健康調査、福島
県議会が請願採択
10月14日 毎日新聞
<http://goo.gl/YA1u1>



福島の甲状腺検査評価部会長が辞表
「放射線の影響 考えにくい」に疑問
10.21
北海道新聞



8月8日の「福島民友」記事を契機に「甲状腺検診縮小」の動きが活発になりました。9月14日の福島県民健康調査検討委員会では多くの委員から「検診継続」発言が続きましたが、そうした委員の多くも「潜在がんによる過剰診断」を認めているのが現状です。

9月26～27日、福島市で第5回福島甲状腺がん国際会議が開かれました。その目的を菊池・福島県立医科大学長は「(甲状腺検査のあり方をめぐる論争の) 解決に向けた提言をまとめること」と述べています。ウクライナ、ベラルーシ、ロシアなどの研究者、さらには国連科学委員会(UNSCEAR)、世界保健機関(WHO)、国際原子力機関(IAEA)など国際組織を総動員して、甲状腺検診縮小のお墨付きを得ようというわけです。

果たして、甲状腺検診縮小の論拠は示されたのでしょうか？ 国際会議を傍聴・質問した2人に国際会議の内実を話していただきます。

甲状腺検診縮小の論拠は示されたか？

—福島甲状腺がん国際会議 傍聴報告—
報告：瀬川嘉之(高木学校)、温品惇—

11月17日(木) 午後6時開場
6時15分～9時15分

文京区・アカデミー茗台・学習室A

地下鉄丸の内線「茗荷谷」駅下車、「春日通り」改札を出て右折、春日通りを右へ 徒歩8分、茗台中学校と同じビル隣りの入口から7階へ

参加費：500円

申込先：anti-hibaku@ab.auone-net.jp
電話：090-3577-4844 (温品；ぬくしな)

